



西小だより



- ・考える子
- ・やさしい子
- ・つよい子
- ・はたらく子



「本気」で力を伸ばす

校長 淵上 こずえ

長かった2学期も12月を残すばかりとなりました。12月の授業日数は18日ですから、あっという間に冬休みということになります。子ども達には、学習・生活両面にわたってしっかりとまとめをして、今学期ならびに今年一年を締めくくってほしいと思います。

また、それぞれの学級では、子ども達の発達段階に応じて、2学期のめあてや個人の目標を掲げて生活してきました。子ども達一人ひとりが自分の生活を振り返り、よくできたこと、課題として残ったことを明らかにして、次のステップに向かってほしいと思います。

さて、本校が掲げる学校教育目標の中の「五つの気」には「本気：何事にも一生懸命取り組む」という内容があります。この「本気の取組」を、子ども達は様々な場面で見せてくれています。

まず、学習における本気です。2学期には本校の先生だけでなく県や町の教育委員会の方々、他校の先生方や学校運営協議会委員の方等に授業を見ていただく機会がたくさんありました。どの学年においても、全員が書いたり、読んだり、考えたり、話し合ったりといった活動に、本気で取り組むことができていました。本気で取り組むからこそ、学びが確かなものとなり、さらに深い学びへとつながっていく場面が多くあり、素晴らしいと思いました。授業での本気度は高まっていますが、一方で家庭学習については、個人によって若干温度差があるようです。「宿題を終えた」という結果は同じでも、その過程がいい加減なものか、本気で取り組んだものかで学びの確かさは大きく変わってきます。毎日の宿題をきちんとこなすことはとても大変なことです。しかし、大変だからこそ、本気で取り組むことで自らの力をさらに伸ばしてほしいと思います。



次に、生活における本気です。特に、5・6年生の委員会活動に子ども達の本気を感じています。運営委員会は、毎週木曜日に講堂の横や児童玄関に立って挨拶運動を行っています。放送委員会は、給食時間に先生当てクイズ等自分達で考えたクイズを出して、みんなを楽しませています。緑化・整備委員会は、毎日交代で児童玄関の掃き掃除をしています。保健・給食委員会は、給食を取りに行ったり、戻しに行ったりするときの階段や廊下の歩き方等を確認して、よくできた学級を発表しています。図書委員会は2学期の読書推進活動として「GoTo日本 GoTo世界」を中心となって推進しました。体育委員会は、持久走の練習で何周走ったか、学級全体の数を集計して発表し、みんなの意欲を高めました。このように、どの委員会でも自分達で考え、工夫して、学校生活をよりよいものにするために本気で頑張っている姿に感心しています。そして、この姿は間違いなく下級生のお手本となり、よき伝統として受け継がれていくことでしょう。

最後に、持久走における本気です。「つらいこと・大変なこと」の一つに、持久走があります。長い距離をひたすら走るというのは本当にきついものです。長距離ランナーでもない限り、途中で苦しくなって、必ずやめたくなります。子ども達は、校内持久走大会に向けて、登校直後や、体育の時間、業間時間に練習に取り組みました。その中でも、子ども達の本気を感じたのは、登校直後の自主練習です。登校したらすぐ、素早く荷物を片付けて連絡帳を書き終え、運動場に出て走ります。その姿から、自らの力を伸ばそうと本気で取り組んでいることが伝わってきました。そして、持久走大会では、多くの子ども達が練習の成果を発揮し、記録を伸ばしていました。当日のコンディションによっては、練習のときよりも記録が落ちてしまったということがあったかも知れませんが、練習での本気の取組によって得たものは、本番での好記録、高順位に勝るとも劣らないものであり、今後様々な場面で必ず生きて働くことと思います。

どんなことでも本気でやるとやっぱり疲れます。でもその疲れは、爽やかなものです。なぜなら、本気で頑張ることは、自分の力を伸ばしたり、人の役に立ったりといった、よいことにつながっているからです。私たち教職員も、子ども達に負けない「本気の取組」で学校教育目標の達成に向けて頑張っています。今後とも保護者の皆様、地域の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。